

2019年度 特別研究推進費実績報告書

2020年 4月 30日

北九州市立大学長 様

(所属・職名) 基盤教育センター 准教授

(氏名) 坂本 毅啓

2019年度に交付を受けた特別研究推進費に係る研究実績について、
次のとおり報告します。

研究課題名	子どもの貧困対策の事業評価方法に関する先進的事例の調査研究 ～子どもの貧困対策はどのように評価されるべきか～					
実施内容・研究成果の要旨 (概要書を別途添付)	<p>当初予定していた通りに計画を進めることができず、ヒアリングを8月～9月に予定していたが、共同研究者の本務が予定よりも多忙を極め、予定を変更して2月～3月に変更をした。当初の計画での訪問先は9ヶ所であったが、予定が遅れたことと新型コロナ（COVID19）の感染拡大防止の観点からヒアリングを断念したこともあり、訪問先は千葉県習志野市、八千代市、神奈川県横須賀市、宮崎県日向市、都城市の5ヶ所であった。これ以外に先進的な取り組みをしている民間団体として滋賀県大津市のNPO法人こどもソーシャルワークセンターへもヒアリングを行った。</p> <p>研究会については、県立広島大学と北九州市立大学において2回実施した。2月から3月にヒアリングを進めることができなかったこと、それを踏まえた北九州市における子どもの貧困対策の事業評価方法について研究チームとして十分に議論を深めることができなかった。</p> <p>上記の通り、共同研究者と十分に議論を進めることができなかったため、十分な研究成果を出せたとはいえない。ただし、当初予定よりも少なかったとはいえ、先進的な地方自治体における取り組みをヒアリングを通して、各地方自治体が子どもの貧困対策をどのように評価したら良いのかを担当実務者レベルではかなり悩まれていることがわかった。残されたヒアリング予定地方自治体と、北九州市内で活動に取り組んでいる団体等へのヒアリングを通して、2020年中に北九州市における事業評価方法について共同研究チームとして結論を出すことを目指す。</p>					
	合計	使用内訳 (単位:円)				
交付決定額	700,000	備品費	消耗品費	報酬	その他	旅費交通費
支出額	458,800			12,100	35,000	411,700
執行残額	241,200					
共同研究者	所属・職名	氏名		役割分担等		
	県立広島大学専任講師	志賀 信夫		貧困理論に基づく分析		
	帝京平成大学助教	畠中 亨		社会調査・公式統計等を活用した分析		
	北九州市立大学非常勤講師	工藤 歩		子どもの権利や発達保障の観点からの分析		
	地域共生教育センター特任教員	勅使河原 航		住民参加やまちづくりの観点からの分析		
	大学院博士前期課程2年	宮島 優奈		研究補助、議事録作成		
大学院博士前期課程1年	芹田 和気		研究補助、議事録作成			